



19春闘「団体交渉」開催！ 6年連続のベア獲得をめざして

春闘申4号 第1回交渉

3月4日、2019春季生活闘争の申入れ 申4号「賃金引き上げに関する申入れ」(2月12日提出)の第1回団体交渉を開催した。

第1回目の交渉では、組合側から要求の趣旨説明となり、要求の額に関しては、連合の求める賃金改善2%（定昇込み4%）の、ベア部分について、JR連合春闘方針に基づいた「3,000円」の産別統一要求と併せて、月例賃金改善の3,000円相当の労働条件改善要求「申5号」と、「申6号」夏季手当要求についても、平行した議論を求めるものとした。

組合の主張

日本経済は、実質賃金が物価上昇に追いつかないなどの悪影響で、個人消費の伸び悩みが続いており、加えて、先に予定されている消費増税の影響も懸念され、不透明感と先行きの不安が増している。社会の活力を生み出すべく、経済の好循環を実現しようという企業に対する社会的要請にこたえるべく、日本最大の鉄道事業者である当社があるべき姿勢を示すことが大切である。また、効率化、生産性の向上が進められるなかで、この間の懸命な組合員の努力に報いることであり、春闘要求にしっかりこたえることが必要である。そして、そうした認識を労使が一致させ、努力をともにし、更なる発展と社員の幸福の実現に向けていかなければならない。

労使は対立だけではない！あるべき形を創造しよう！

少子高齢化で売り手市場といわれるなか「人材確保」のために、最大の労働条件である賃金については、他との競争といった観点で、負けないものが必要である。しかし、当社を選んでもらうために、「魅力ある会社」という視点からすれば、そこに働く者が、どれだけ意欲を持って、明るい職場で、前に向かって頑張っているか、といった企業風土が、先ずはなければならない。賃金といった条件は当然であり、どれだけ働く意欲を感じられる会社であるかが重要である。今、そうした風土ができていないか。私たち労働組合は、労使交渉といった場で、その立場のスタンスを訴えることが重要であり、あるべき姿であると思っている。労使は対立だけではない。春闘交渉については、そうした議論が重要であり、あるべき形ではないか。会社の考え方を今度交渉で示していただきたい。

この先の30年に向かうべく掲げた「変革」への道。それに伴う施策やシステムの改変・新規実施を真に実現していくためには、労働者の理解と意欲・モチベーションが必要であることは言うまでもない。労働組合の存在意義をあらためて訴えるとともに、イースト春闘を一丸となり勝利してく！